

令和4年度 学校法人 三幸学園 SANKO日本語学校綾瀬 自己評価報告書

自己評価報告責任者：教務主任 平井 宏子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、日本語学校分野の学校として「日本語・日本の文化・技術を学び、日本と母国の懸け橋となり、日本そして世界を明るくする」というビジョンを掲げている。

また、「技能と心の調和」という教育理念の下、母国や国際社会の発展に寄与する有益な職業人を海外に数多く輩出することを目標に、「日本語・日本の文化・技術・生活スタイルを習得し、日本から母国へその習得したものを発信し、日本・世界社会に貢献できる人材」を育成する人物像とし、日本社会、国際社会に求められる人材の育成を進めている。

2. 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学校の理念・目的・人材育成像等を周知する場として、学生に対しては入学後のスタートアッププログラムを設けているが、学生本人へは勿論のこと保護者も含め本学方針をご理解いただける様、ICT 等も活用しながら施策を検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・各国エージェントを通じ、入学前の留学希望者、また、在校生保護者への学校理念、目的、育成人材像、特色、将来構想等の周知の徹底を念頭におき、学校教職員各人が目的を持って、学校紹介、説明を行う。
- ・入学後に実施する「スタートアッププログラム」において、新入生への教育理念・目指す人材育成像・方針への理解を促し、明確な目標設定を行う。また、それらを校内掲示やSNSを通じて発信し、視覚的にも浸透を図る。
- ・HR等を有効的に活用し、スタートアッププログラムで周知した教育理念・目指す人材育成像を定期的に振り返り、浸透の機会を設ける。

③ 特記事項

- ・今年度も海外現地日本語学校訪問、現地エージェント訪問等が実施できなかったため、オンラインでの学校説明会時、また、入学選考時の保護者面談時にて理解・周知を行った。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・実施した教育活動の情報公開は適宜行っているが、教育活動の目的や課題等に関する全教職員への周知徹底を徹底し、学生達へも動機づけ・実践していくように工夫していく必要がある。
- ・三幸学園全体で情報システムツールが整備されてきている為、積極的に活用して教育効果や部門運営の生産性を高めていくこと。

② 今後の改善方策

- ・教育活動の目標・課題に関し、会議や面談等を利用し、全教職員に周知し、統一した教育観のもと、目標・課題に沿った教育活動を実施できるようにする。
- ・スタートアッププログラム・HR 等を活用し、在校生にも教育目標・課題の周知浸透を図る。
- ・情報システムツールの使用方法を周知、共有し、さらなる業務の効率化を図る。

③ 特記事項

1. 運営方針:今年度運営方針は年度開始時に開催する「教務全体会議」で教職員全員に示している。また、さらなる浸透、共有化のため、全教職員が一堂に会する全体会議は年2回開催している。
2. 事業計画:学則に定めた学校の目的、およびそれを達成するための教育目標に基づき、理事会の承認を得て今年度「事業計画(経営計画)」を策定し、予算等を明示している。
3. 組織運営:学校運営の組織と構成員、校務分掌は「組織図」「学則」「校務分掌表」に示している。
校務分掌表では各教職員の担当校務、意思決定機能を明記している。
4. 人事給与:就業規則として雇用形態別に規定があり、明確化されている。
教職員に関しては、関係法令により資格が定められている分野は、規定通りの人材を確保、配置している。他の分野においても必要要件を満たした人材を確保している。
5. 教務・財務:教務主任、財務決済のための責任者を配置している。
6. 情報システム化:学生管理システムによる在校生情報、出席状況、成績管理を行っており、卒業生データも管理している。
社内チャットシステムを使用し、教職員間の情報共有ツールとして利用している。
学園独自の学生学習アプリを導入し、学生のオンライン学習ツールとして利用している。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
カリキュラムは体系的に編成されているか	4
日本語学校卒業後の進路を見据えた視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
成績評価の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・資格（JLPT・EJU）取得の指導体制やカリキュラムは体系づけられているが、取得率の向上に向けた更なる教育技術の向上と対策内容の検討が喫緊の課題
- ・同グループ内で教員養成講座を運営しており、具体的な連携施策を実行する事で有能な教員確保する事

② 今後の改善方策

- ・資格取得率向上のための指導体制を強化し、カリキュラムの見直しを図る。また、見直した教育内容を教務会議等で教職員に周知し、実行する。
- ・教員確保に対し、グループ内教員養成講座との連携強化を図るだけでなく、他団体・企業とも連携し、安定的運営ができるようマネジメントを実施する。

③ 特記事項

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
日本語能力の向上が図られているか	4
日本語能力の習熟度を把握しているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後の進路を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・さらなる日本語能力の向上(N1・N2レベル学習者の増加)。

② 今後の改善方策

- ・一期生卒業生を輩出したため、卒業生進学先への密な連絡、訪問を行い、連携を図り、卒業生の情報を把握する。
- ・オンラインを効果的に利用し、担任中心に卒業生との連絡を図り、卒業後の動向、サポートの一助とする。
- ・日本語能力のさらなる向上に向け、時代背景・ニーズに合ったカリキュラム作成・教育方法の見直しを随時図る。

③ 特記事項

なし

(5)生徒支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
卒業後の進路に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3

① 課題

- ・卒業生との連絡強化
- ・保護者との連携強化
- ・日本社会における外国人材へのニーズに合わせた教育環境・指導体系を実施している為、教職員間の統一認識をさらに高めて相乗効果を発揮していくこと。

② 今後の改善方策

- ・学校公式 FaceBook 内【卒業生専用ページ】内容の充実を図り、また、オンライン同窓会の実施や学校行事参加の案内等を通じ、卒業後も気軽に連絡を取れるように図る。
- ・各国エージェントを通じ、保護者会の開催など、保護者に対し、学校の理解を深める場を作る。
- ・日本社会における外国人材へのニーズを正確に理解し、それに合った教育環境を策定し、教務会議等で全教職員に周知し、統一した教育を実施していく。

③ 特記事項

なし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
使用教材は適切なものか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・教育アプリを活用し、ICT 教育のさらなる推進を図る。

② 今後の改善方策

・通常時の教育活動への移行を進め、アクティブラーニング ICT 教育の活用を図る。

③ 特記事項

・日本語教育機関団体連絡協議会策定の「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を遵守した学校運営の実施

(7)入学者の募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適正に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・オンラインを通じた募集活動が主体となる為、進行・内容をさらに工夫し本学教育を適切に伝えていくこと

② 今後の改善方策

・オンラインでの学校説明会においても、入学希望者やその保護者に対し、しっかりと教育内容、学習目的を伝え、浸透を図る。

③ 特記事項

・オンラインでの授業体験の実施
・オンライン学校説明会の実施

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

安定経営がなされている。

【予算・収支計画】

適切である。

【会計監査】

適正である。

【財務情報の公開】

三幸学園のホームページにて情報公開している。

② 今後の改善方法

以降も、三幸学園本部の関係部署と適切に連携しながら、学校の安定的かつ適切な経営に邁進する。

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
出入国管理及び難民認定法令及び各種関係法令等の遵守と適切な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・関係省庁の各法令を適切に把握し、引き続き、法令遵守を徹底していく。

② 今後の改善方策

・会議や掲示物を通じて、全教職員に法令遵守に対する啓蒙を積極的に実施していく。
・改訂された法令への都度の対応、遵守、理解浸透の機会を都度設定する。

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
地域と連携した教育内容の充実が図られているか	2

① 課題

・コロナ禍の影響で積極的な地域との連携活動は実施されていないが、今後は姉妹校・地域社会ならびに日本文化との交流を学校主体の活動として再開していく。

② 今後の改善方策

・地域連携を図り、地域貢献活動を実施する。

③ 特記事項

なし